

MGU Chapel Letter

—第 51 号 2025 年 7 月 2 日— 発行：大学宗教センター

* 2025 年度 年間聖句 *

「あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯（ともしび）。」

詩編 119 編 105 節



7月の大学礼拝スケジュール

前期の礼拝は、7月25日（金）で終了です

【12時10分～12時30分 礼拝堂にて】

7月の礼拝日程（説教者の氏名 ※敬称略）

- ・ 7月2日（水） 長尾厚志 （仙台ホサナ教会牧師）
- ・ 7月4日（金） 佐々木哲夫 （理事長・学院長・宗教総主事）
- ・ 7月7日（月） ティモシー・フェラン（英文学科教授）
- ・ 7月9日（水） 赤井慧 （尚綱学院中学校・高等学校聖書科主任）
- ・ 7月11日（金） 長谷部弘 （学長）
- ・ 7月14日（月） 松本周 （一般教育部教授）
- ・ 7月16日（水） 佐藤由子 （仙台南伝道所牧師）
- ・ 7月18日（金） 清水禎文 （教育学部教授）
- ~~~~ 7月21日（月） 海の日で休み ~~~~
- ・ 7月23日（水） 松井浩樹 （東北学院中学校・高等学校宗教主任）
- ・ 7月25日（金） 栗原健 （大学宗教センター長）

* 7月16日（水）16時30分からの教職員礼拝には、学生も参加できません。中高宗教主事の大久保直樹先生が説教をされます。

✦ 水音を聞きながら ✦



暑い日が続いています。こうした中、礼拝堂隣の噴水の水が、ひとしお涼やかに見えますね。流れる水音に耳を傾けながら、ベンチに座ってくつろいでいる学生の姿もよく見かけます。「いくらきいてもあきないのは、水の声ですよ」と言ったのは島崎藤村ですが、確かに水音を聞いていると、余計な思いが遠のいて、心が澄んだものになって行くように思えます。

ここで思い出されるのが、イエスの「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」（ヨハネによる福音書4章14節）という言葉です。イエスの十字架と復活が示す神の愛を知った者は、心に安心の土台ができ、自分自身と他者を愛する人生へと導かれる、ということの意味します。夏陽を受けて輝く噴水の水は、私たちに対する神の愛と聖霊の象徴でもあるのです。

この噴水には、長い歴史があります。造られたのは昭和3年（1928年）。もともとは、仙台の街にあった旧キャンパスの庭に立っていました。昭和20年7月10日の仙台空襲で宮城学院の校舎が焼け落ちた際にも、この噴水は猛火の中で耐え抜きます。静かに水を噴き上げながら、この石は多くの痛みや哀しみを見て来たのです。

終戦から80年が経とうとしている今でも、ウクライナやガザなどでは紛争が続き、多くの人命が失われています。過去の経験から学ばずに同じ過ちを繰り返す人間の愚かさに、絶望的な思いにかられている人も少なくないでしょう。

イエスは、「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイによる福音書5章9節）と教えました。平和は、権力を持った指導者や特殊な聖人が作り出すものではなく、神の愛を知った1人ひとりの人間が実現して行くものなのだ、ということです。他者のことを知って理解しようと努め、共に生きようとする1つひとつの営みが、平和を作る一歩一歩となります。

「自分がすることなんて、小さ過ぎて意味がない」と思うことはありません。小さく目立たないこの噴水も、一世紀近くになんて多くの学生たちの心を潤して来ました。希望を捨てることなく、自分に何ができるかを考えて実行して行きましょう。「私たちがすることは、大きな海のたった一滴の水にすぎないかも知れませんが、その一滴が集まって海となるのです。」（マザーテレサ）
(栗)

第2回キリスト教講座のお知らせ

永井隆『長崎の鐘』 平和への祈り
講師：松本周(一般教育部教授)

7月11日(金) 14時10分～15時10分

自ら長崎で被爆しながらも負傷者の救護に奔走し、後に白血病で斃れたキリスト者医師・永井隆（1908年～1951年）。彼が記した『長崎の鐘』（1949年）は、被爆直後の長崎の状態と救護活動の実態を描き出した迫真の記録であり、悲惨な現実を見据えつつも希望への道筋を探るものです。この本のメッセージを学ぶことを通じて、平和への思いを新たにしましょう。会場は決まり次第、学内掲示のポスターによってお知らせします。



【連絡先】 宮城学院キリスト教センター
TEL：022-279-9558 Email：christ-c@mgu.ac.jp